

おじいちゃんに会いたい

伊勢原市立中沢中学校

一年 芹ヶ野

陸

「お父さん、わかる？元気があった？楽しみにしていた東京オリンピックが始まったよ！日本選手も頑張ってるよ！」

母が、画面越しにその声をかけると、おじいちゃんをつぶっていた目がちよつと開き、

「おー。」

と言う小さな声が聞こえました。おじいちゃんが動く姿を見るのも、声を聞くのも久しぶりで、ほくはとでもうれしかったのですが、前に会った時より小さく、細くなった姿に、とても心配になりました。

昨年、コロナウイルスが感染拡大し始めた頃、おじいちゃんは二度目の脳出血を起こし突然倒れてしまいました。すぐに手術をしましたが、体にまひや障害が残り、自宅に戻ることができずに入院生活を送っています。コロナウイルス感染予防のために、同居するおばあちゃんさえも直接会うことができなくなり、一年以上が経ちました。オンライン面会をすることができるようになりましたが、二週間に一度、五分間だけと決められています。おばあちゃんやいとこたちと順番に面会をしていますが、学校がある時は面会時間が合わず、ほくがおじいちゃんと画面越しに会えたのは、倒れてしまつて以来、一年以上ぶりでした。

おじいちゃんは、脳出血を起こす前から認知症の症状がありました。たびたび自宅から居なくなつてしまい皆で探したり、食事をしたことを忘れてまたすぐに食べようとしたり、おじいちゃん自身でもどうすることもできない症状が次々に現われました。段々とおばあちゃん達の負担が大きくなり、デイサービスの利用をすすめられたこともありました。しかし、おじいちゃんはとてもいやがったそうです。ほくは、その時のおじいちゃんの気持ちになんとなくわかるような気がしました。

自分が不安な状態の時に、慣れない場所で知らない人たちと接することは、ほくだつて怖いからです。でもこのままだと、おばあちゃんたちも体をこわしてしまうかもしれない。おじいちゃんおばあちゃんにとつて、どうしてあげるのが一番いいのだろうと皆で考えている時に、おじいちゃんは倒れ、長く入院することになってしまいました。

今、おじいちゃんは、二十四時間体制で病院や介護スタッフの方々に支えられています。オンライン面会をしている時も、おじいちゃんがほくたちの顔をよく見えるように、体や顔を支えてくれたり、うまく話せないおじいちゃんの言葉を、代わりにほくたちに伝えてくれます。病院にはおじいちゃんだけでなく、他にもたくさん入院している人たちがいます。その人たちにも、おじいちゃんと同じように接して、お世話をしなければなりません。コロナウイルスの感染拡大がおさまらず、介護に関わる人たちもきつと、いつ自分たちが感染するかわからない不安の中で働いていると思います。それでも、いやな顔一つもせずにおじいちゃんたちに接してくれている姿を見て、ほくは胸がいっぱいになりました。

オンライン面会で見たとおじいちゃんは、やせてはいましたが、とても安心した表情をしていました。以前、家族以外との関わりをとても嫌がついていたおじいちゃんの心を変えたのは、ほくたちではなく、今も一生懸命支えてくれている介護スタッフの方々だと実感しました。コロナウイルスがおさまつて、病院で面会できるようになったら、ほくは直接感謝の気持ち伝えるたいです。そして、おじいちゃんに会つたら、おじいちゃんが何よりも楽しみにしていた東京オリンピックの話がたくさんしてあげたいです。